



私が牧師を続けているわけ・「成長」に携わらせていただいて 牧師 立石尚志

●「何で牧師なんかしているのですか？」最近何度かこの質問を頂き、改めて自分は牧師をしているのだなあ、と思わされた。私はサラリーマンの子どもであり、父の異動に伴って幾度となく引っ越しをし、生活環境が変わってきたりしたので、仕事というものは、基本的に上から命じられたことをする、という感覚が身に付いているのかも知れない。だから、自分から起業し、ビジネスを始めたりする人に会おうとすごいなあ、と頭が下がる。自分にはそういう動機づけがあまり無く、昔よく「今の若者は情けない！」という意味で使われた「指示待ち症候群」の傾向があることは否めない。

●とは言え、人生の根本的な方針について定まっていなわけではない。それは「神がせよと言われることなら何でもする」というものである。大学4年の時に、キリストにある救いの喜びを体験し、その時から自分は一生、この神に仕えていくのだ、という基本方針が固まった。ただ当時は、自分は生涯、社会人として神に仕えていくのだらうと思っていた。その後色々なことがあり、伝道者を養成する神学校に進むことになったが、依然、将来何をするのかは分らなかったし、未

定でもあった。

●決定的だったのは妻との出会いである。「私は伝道者としてしか結婚するつもりはありません。」と言っていた女性を神が私の配偶者として選んでおられると確信した時に、神は当面私を伝道者として召しておられるのだ、と理解するようになった。人間関係は得意分野ではなく、小中高と学校に通い続ける間、リーダーになるような人間はまぶしく見えたものだった。人前に立つことに自信は全くなかったが、神が望まれるなら、必要な力は与えられるだろうと踏み出したのが1992年である。

●横浜で10年勤めたところで、今度は宣教師という立場で働くように召され、準備も含め、今年で9年目に入っている。振り返って見ると、情熱に溢れて、というより淡々と仕事をこなしてきた感があるが、多少メランコリックであり、ダイナミズムにも欠ける体質でありながらも、続けることが許され、神がこの仕事を通して与えて下さっている楽しみも理解するようになった。それは、神の言葉が人を生まれ変わらせ、その人の霊を成長させ、美しい花を咲かせ、実を結ばせて行くプロセスに参加し、観察し、観賞することができる楽しみである。

●私の父は元々百姓として育ったため、サラリーマンをしながらも植物、農作業に対する愛を失ったことがなかった。長男であった私はその父の体質を幾分か受けついでこともあり、牧師になってか

ら「園芸」が妻と私の共通のレクリエーションとなった。以来、様々な花や野菜にチャレンジして来て、失敗や成功を繰り返しているが、植物に携わることで身について来た感覚があることに気がついていた。それは「成長の予測と期待」である。この種を蒔けば、何ヶ月か後にはこれくらいの大きさの植物になり、花や実をつけるようになる。この枝をこのように剪定すれば、来年はこのような形になっているであろう・・・等々、様々な植物の将来の姿を思い描けるようになり、そのイメージに合わせ、準備し、投資するようになる、という感覚である。

●「成長」は神が全て命あるものに与えられた素晴らしいメカニズムであるが、その成長のプロセスに携わり、助け、美しく整えることが園芸であるなら、牧師の仕事も基本的に同じである。いや、恐らく多くのビジネスも同じであろう。キリストは神の言葉は「種」であると言われたが、確かに神の言葉が人の心に蒔かれると人の魂は永遠の命に向かって成長し始める。牧師は、そこで、予測と期待を働かせ、環境を準備し、成長を助け、実りを待つ。肥料を与え、雑草を抜く。そして神が人の数だけ、様々な種類の花を咲かせ、実を实らせて下さる。多くの人が信仰に出会い、実を結んで行くのを見、神の花畑の美しさと素晴らしさを少しばかりでも体験させられている中で、今、私は十分にこの仕事に対する動機づけが与えられていると言える。 ■

一年を振り返って 証し 2010年4月18日

K. M. 兄

昨年の4月12日のイースターの日に、Uさんと一緒に洗礼を受けて、早いもので丁度一年になりました。私の生活はこの一年で大きく変わりました。証しという大きさなものではありませんが、クリスチャン一年生であった私の経験を皆様にシェアさせていただきます。

洗礼を受けた後、まず今まで続けた

- 1) 毎週のマウントキスコ聖研への継続参加
- 2) CLAY を使って日々のデボーションの実行
- 3) 毎週の礼拝、旅行中はその土地の教会への参加
- 4) ハーベストタイムからの学び

を実行していく目標を掲げました。内心、まあこれだけやれば“ぼっち”クリスチャンとしての成長間違いなしと思って実践してやってきました。しかし実際に、この一年間を振り返って見ると・・・

●最初に、まず自分自身のことですが、洗礼後はクリスチャンとしてゆったりと楽しみながらやっていけると気軽に考えていましたが、4つの目標以外に礼拝後にフォローアップクラスが設定され、予習とその暗証課題があり、更にいろいろな行事やミーティングへの参加等々、いろいろなプレッシャーと感ずることが多くなりました。実はこのような証しもその一つなのです。また教会や聖研の通いにかかり時間がかか

り、好きなゴルフをしたり余暇に費やす時間が減り、様々な不満や誘惑を強く感じた一年でした。そんな気持ちが交錯する中、何とか実行していくことが出来たのは、グループの皆さん、教会の皆さんの励ましによるものだと大変感謝しています。

- また家族の(特に息子) いろいろな状況変化から、祈りの課題も数多く与えられた一年でありました。祈りの中で焦燥感やジレンマにも陥りました。本当に神の計画によって、問題が解決されるのか、解決はどういった形となるのか、解決の時期は何時なのか、本当に叶えてくださるのだろうかとかと何度となく気持ちが上下し、深く考えさせられ、迷いました。そんな中、孫の誕生、その成長と恵みも与えられたことは大きな感謝でした。子供への祈りから、神への信頼、忍耐、感謝を実体験できた事も大きな経験でした。息子は、大学時代に横に反れてしまったのですが、再びクリスチャンとして神とともに歩んでいます。家族の長として責任を持って家族を導いていけるようにと、今もなお共に祈り続けています。
- 私の場合、夫婦関係の方向性の一致が、クリスチャンになる大きなきっかけとなりました。共にクリスチャンとして信仰



マウントキスコ聖研のH兄(左)、M兄(右)

が一致すれば、すべては良い方向、少なくとも問題は解決の方向に向かうものだと考えていました。しかし根本的な点で、お互いの信仰に対する不満や問題も発生し、あげくの果てに、本当の信仰とは何かというような議論にまでエスカレートしたこともありました。こうしてお互いに合い入れないところも浮き彫りにされました。しかしこのような状況が続く中、信仰以外に、お互いに理解できていなかったことを聖書から教えられ、認識できるようにもなって来ました。この溝を埋めていくことが私たち夫婦の今後の課題であり、共に取り組むというチャレンジも与えられています。本当に感謝です。これからも出来る限り夫婦が共に学び、共有できるセミナーや集会などに参加したいと思っています。

このように一年を振り返ってみると、皆さんのようにすばらしい感動的な体験はなく、まさに、誘惑、迷い、葛藤の連続の一年でした。そんな中で、ギブアップすることなく継続できたこと、祈りがほんの少しずつですが叶えられていること、更に夫婦への課題と新たなチャレンジが与えられていることを神に感謝しています。クリスチャン2年生としてのチャレンジは、フォローアップの中で、学んだ聖句・・・

聖書は、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。第二テモテ3：16

・・・を心に刻みつつ、さらに御言葉を学び、訓練を通して、御言葉を実生活に適用していくことだと思っています。どうか今後とも教会の皆さんの励ましとご指導をお願いします。■



一年を振り返って

証し 2010年5月9日

J. U. 姉

私が洗礼を受けるきっかけになったのは母の死でした。大きな困難ではありましたが、聖書の御言葉が私を洗礼に導き、信仰を決心しました。すべてのことは神様のご計画であること、最善の道を備えてくださっていること、すべては益とされること、神様はいつも共にいてくださること・・・これらの御言葉に励まされ、これから起こるであろう困難も大丈夫だと大きな安心感に包まれました。

しかし一昨年の2月、残された父に末期がんの宣告がされました。ようやく母の死から立ち直りかけた私には大変はショックでした。それでも神様を知ったことで、自分でも驚くほど落ち着いて受け止めることができました。しかしその2ヵ月後、父から結婚したい人がいると告げられました。母が亡くなってまだ1年。言いようのない嫌悪感が湧き上がってきました。心から祝福することなどできない状態の中で、父とその女性は入籍しました。ついこの間まで母が使っていたお茶碗を彼女が使っているのを見ては「あなたのものじゃない」と心がざわつきました。神様のご計画とは何なのか分からず苦しみました。

そしてついに昨年11月、父が亡くなりました。父が生きていることで避けることの出来た彼女との関係が直接向き合わなくてはならぬものとなりました。また、父の死によって遺産の問題も浮上しました。亭主関白だった父に仕え、支えてきた母のことを思うと、彼女にだけは触れて欲しくないという思いからますます彼女とこれ以上関わり合いたくないと思いました。しかしどうにかしてクリスチャンとしてこの問題を解決したいと考えていました。そういう中、

無慈悲、憤り、怒り、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、

みな捨て去りなさい。お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。エペソ人4章31-32節

との御言葉が与えられ、先生からも「まず愛しますと声に出して言うてみてはどうか。」とアドバイスを受け、彼女へのわだかまりを抱えながら電話をしました。すると何だかとてもすっきりとした気持ちになりました。私はたくさんの恵みを神様からいただいている。主人や子供たち、生活していくためのお金。だからもういいですという思いがわきあがりました。私が彼女を愛さないことで、母を失った父をこれ以上悲しませたくないとも思いました。この人を大切にするということはきっと神様の御心なのだと自然に思えました。

ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいませ。第二コリント9章7節

私はこれまでどうしても受け入れられない人など私にはいないと思っていました。反りの合わない人とうまくやってくことも苦手ではありませんでした。しかし私は愛せる人を愛してきたこと、赦せる人を赦してきたことに気づかされました。彼女についてはこの人だけは例外にしてくださいと自分勝手なことを考えていました。彼女を通してでなければ、私は自分の問題に気がつくことは出来なかったと思います。神様は私が避けていたことをこのように明らかにされたのでした。

クリスチャンになってから平安も多く与えられますが、クリスチャンでなければ気がつかない自分の不十分さを思い知ること多くなり、がっかりすることも増えました。それでも多くの成長の機会が与えられています。患難さえも喜ぶというまでにはまだまだ時間がかかりそうですが、思い煩わず、神様を信じて歩んで行きたいと思います。■

7月～9月の集会・行事予定

※ 下記以外にも週の間に、入門クラス、聖書の学び会が定期的に行われています。お問い合わせください。■ 夏休期間中、集会も不規則になりますのでご確認ください。

【定例集会】

★ 日曜礼拝 / 10:00～11:30

グループ会 / 11:45～12:15

大人、子供それぞれのクラスに分かれます

【各種集会】

★ グリニッチ 家庭集会 (秋より)

原則第一金曜 10:00am (場所は電話で)

★ グリニッチ 聖書を読む会 (秋より)

金曜 10:00am (場所は電話でご確認ください)

★ スタンフォード 聖書を読む会 (秋より)

毎週水曜 1:00pm 場所: 井上宅

★ ハートフォード 聖書を読む会

月三回水曜 9:30am テイラー宅 or 山田宅

月一回木曜 10:30am テイラー宅 or 山田宅

★ ハリソン 聖書を読む会 (秋より)

隔週火曜 10:00am 場所: バリソ長老教会

★ マウントキスコ 聖書を読む会 (秋より)

毎週水曜 8:00pm 場所: 平野宅

★ ハリソン・メンズ・バイブル・フェローシップ

第1, 2, 4 木曜 8:30pm 荒木宅

8/22 (日)～8/27 (金) 2010年子供バイブルキャンプ (年少～中2)

★ ハーベスト・タイム: <http://www.harvesttime.tv/>

★ CGNTV インターネットTV放送 <http://japan.cgntv.net/>

★ BBN 聖書放送 <http://www.bbnradio.org/japanese/>

★ 英語で説教を聞きたいなら! <http://www.oneplace.com/>

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志

c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com

《問い合わせ》教会 TEL/FAX (203) 531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203) 531-1609, e-mail: jgclmi@verizon.net

